

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770900856		
法人名	医療法人杏仁会		
事業所名	グループホームブルーベリー		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	高槻市東和町57-1		
自己評価作成日	令和6年 12月 17日	評価結果市町村受理日	令和7年2月15日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2770900856-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和6年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎朝その日の夕食の献立を決め、利用者とスタッフが一緒に買い物に行き、皆で調理を行っている。 ・庭には畑があり、収穫した物は食卓に並んでいる。 ・敷地内、敷地外の散歩、庭、畑いじり等、外へ出る機会が多い。 ・敷地内には老健、居宅事業所、隣接してクリニック、デンタルクリニック、認定こども園がある。 ・夜間入浴を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設を始め地域に根付いた事業展開をしている医療法人の代表が、「独立した家でゆっくり皆と一緒に暮らす」ことができる場所を目的で設立したグループホームです。介護保険開始前の平成10年設立で、見学者の受け入れ等先駆的な役割を果たしてきました。自然環境に恵まれ、広い敷地内にはハーブ園や菜園があり、自然豊かな四季の移ろいを感じることができる環境です。「輝いて共に生きる」の法人理念を基本にした「ゆっくり一緒に楽しむ」のホーム理念の実践は、常に利用者と職員「一緒」の話し声や笑い声が聞こえる暮らしの中にあります。日課となっている散歩や食事材料の買い物、開所時から実施している就寝前の入浴等自宅での暮らし方が実現できています。利用者は活き活きとした表情で一人ひとりできる家事に取り組んでいます。子ども園の園児との交流、利用者の入居前の知人の訪問、横のあぜ道を通る地域住民と交わす挨拶等、地域との交流も日常的な光景となっています。1ユニット9名のほのぼのとした温かい雰囲気の中での暮らしは、「みんなと一緒にだから楽しいね」と利用者のつぶやきが聞こえるグループホームです。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	介護老人保健施設を始め地域に根付いた事業展開をしている医療法人の代表が、「独立した家でゆっくり皆と一緒に暮らす」ことができる場所を目的で設立したグループホームです。平成10年設立で、見学者の受け入れ等先駆的な役割を果たしてきました。自然環境に恵まれ、広い敷地内にはハーブ園や菜園があり、自然豊かな四季の移ろいを感じることができる環境です。「輝いて共に生きる」の法人理念を基本にした「ゆっくり一緒に楽しむ」のホーム理念の実践は、常に利用者と職員「一緒」の話し声や笑い声が聞こえる暮らしの中にあります。日課となっている散歩や食事材料の買い物、開所時から実施している就寝前の入浴等自宅での暮らし方が実現できています。利用者は活き活きとした表情で一人ひとりできる家事に取り組んでいます。子ども園の園児との交流、利用者の入居前の知人の訪問、横のあぜ道を通る地域住民と交わす挨拶等、地域との交流も日常的な光景となっています。1ユニット9名のほのぼのとした温かい雰囲気の中での暮らしは、「みんなと一緒にだから楽しいね」と利用者のつぶやきが聞こえるグループホームです。	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 太いが増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「輝いて共に生きる」を基に、「ゆっくり一緒に楽しむ」をホームの理念として掲げ、日々ケアに取り組んでいる。	「輝いて共に生きる」の法人の理念をもとに、独自の理念「ゆっくり一緒に楽しむ」を作り、実践しています。理念は職員間で共有され、その実践により、常に利用者と職員一緒に話し声や笑い声が聞こえてくる暮らしとなっています。また、職員と一緒に生活をしているからこそ見える気づきや発見を日々の支援に活かしています。理念はホーム内に掲示され、職員間の確認や、家族・地域の方々の理解へとつながっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日スーパーで買い物をしたり、散歩に出かけている。こども園との交流もあり運動会や作品展の見学をしたり、法人のお祭りや花火大会には参加して頂いたりしている。	利用者は食事の買い物のため毎日のようにスーパーに買い物に出かけたり(現在は自粛中)、散歩にも出かけることで地域の方々と顔なじみになっています。ローズマリー秋まつり(法人開催)にも参加しました。こども園とも交流があり、運動会に参加したり、卒園時にはプレゼントを贈ったりしてます。ホーム横のあぜ道を通る地域の人が声をかけてくれる光景は日常になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でお話しさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見はスタッフと話し合い、運営者にも報告し、サービスの向上に努めている。	家族・民生委員・市職員等の参加で同敷地内の老人保健施設会議室にて実施しています。会議では、ホームの活動状況や取り組み等を報告し、参加者から意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしています。参加者から「“ちょっと待ってね”も虐待にあたるのでは」との意見があり、スピーチロックについて考える機会となりました。管理者は、参加者からの問題提起に感謝しています。	コロナ等の感染症予防の観点から、老人保健施設の会議室での会議となっていますが、時には利用者の暮らしぶりがわかるホーム内での開催も検討されてはいかがでしょうか。ホームへのさらなる理解や職員の頑張りをみてもらうことで職員の士気も上がることでしょう。

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方には、電話や会議の場で相談したり、報告をしている。	市職員の運営推進会議への参加により、ホームの状況をよく知ってもらうことで相談・報告しやすい関係が築かれています。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム開設から身体拘束はしておらず、身体拘束ゼロの手引き11項目の読み上げ確認を2か月に1回行っており原則禁止行為であると言う事は全職員に周知できている。	身体拘束の事例はありません。玄関は施錠せず、自由に出入りできるようになっています。身体拘束廃止に向けた委員会や研修も実施しています。法人の教育委員会が作成したわかりやすい「STOP身体拘束」のポスターをスタッフルームに掲示しています。毎日のケアの中での虐待や身体拘束など、開設当初から職員にとって考えられない事でしたが、改めて学習することで認識を高めました。身体拘束ゼロについてホーム独自の「禁止令11項目・項目順守11項目」を作成し、確認し合っています。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にも参加し、虐待について学んでいる。ホーム内だけでなく、自宅、家族に対しても注意を払っている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加したり、地域包括支援センターから情報を得たりしている。後見人であるご家族からも制度について教えて頂く事もある。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には見学して頂いて説明をしており、十分理解、納得した上で契約締結している。解約の際も話し合いの場を持っている。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議で外部者へ表せる機会を作っている。 又、意見は運営に反映する様、努力している。	管理者、職員とも家族の信頼を得ることの大切さを理解し、日々取り組んでいます。リビングの壁には、利用者の楽しかった外出やホーム行事の写真を掲示しています。利用者からは、毎朝、昨日の献立をベースに意見を聞き、夕食・朝食の献立を決め、買い物をしています。家族の面会時には、職員は利用者の生活状況を報告しながら家族の要望を聞いています。毎月家族に送っているホームでの暮らしぶりがわかる写真入りのたよりは好評で、家族から「今月はまだですか」と聞かれるほどです。法人開催の秋まつりには、たくさんの家族の参加がありました。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、起案書等により、提案を聞く機会を設けている。	管理者は、職員が自ら考えて利用者を支援することが大切と考えています。朝夕の職員引き継ぎ時に、職員の考えを確認し、必要な時は自身の考えを説明し、日々のより良い支援に取り組んでいます。業務の引継ぎもスタッフルームで丁寧に行っています。管理者と職員は、自由に意見が言える関係にあります。	1ユニットの少数の職員なので、ミーティングの申し送りで情報の共有ができています。これからは、申し送りや決まったことなどの記録を工夫し、より確かな情報の共有に繋げていかれてはいいでしょうか。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が生き生きとやりがいを持って仕事ができるよう努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの段階に応じた外部研修を受講できる体制を整え、法人内でも毎月研修を行っている。(今年度もコロナの為資料配布され、各自で読むという形の研修会になった事もある)		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市介護保険事業者協議会に加入し、事業者が連携して勉強会等を開催し、よりよいサービスを提供できるように取り組んでいる。(コロナの為今年度は一度もなかった)		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と向き合える時間は一日を通してたくさんあり、じっくりと話を聞くことを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の状態がどのようなであったか、ホームでの生活に対して何を望んでいるのか時間をかけ話を聞くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要とされているのか本人、家族だけでなく情報を頂ける事業所等にも伺い、必要とあれば何度でも話し合うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、わからないことを相談している。 特にブルーベリーでは料理等、先人の知恵を拝借させていただく機会が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている	家族とも十分なコミュニケーションを図り、同じ思いで入居者を支援していく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力して頂き、近所の方、知人の方には面会に来て頂いたり、外出、外泊する事も勧めている。また、手紙や電話のやり取りも行っている。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。馴染みの知人や近所の方の面会は多くあります。誰でも訪問しやすい雰囲気作りに心がけ、訪問を歓迎し、訪問者の帰り際には「またいつでも来てくださいね」と自然な声かけが聞こえます。年末年始に外泊・外出した利用者もいます。20分程のつもりが、道中次々と出会う顔馴染みとの挨拶が長引き、倍ほどの時間をかけて散歩を楽しむ利用者がいます。	

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握している。 入居者が孤立した場合、口論になった場合は職員が間に入るようにしている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても面会に行ったり、ホームに遊びに来て頂いたりしてた。近所の方として、関係が続いている。又、相談を受けた際、誠意をもって答えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で話せる機会を設けている。 その時に話された事をケアプランにも繋げている。	「ゆっくり一緒に楽しむ」の理念を掲げ支援している暮らしの中で、職員は利用者に寄り添い利用者の気持ちを理解するよう努めています。管理者は、利用者が「話がしやすい」雰囲気を大切に考え、職員が忙しそうにしていると利用者になんか思わせないことを心がけるように職員に伝えていきます。また、利用者の「この化粧水どう思う」と新聞広告を見て問う美意識の高さを見習ったり、夜勤の時に掛けられる「夜中でもご苦労さま、ありがとう」という言葉に一層頑張る気持ちを新たに、職員はいつも利用者への敬意と感謝の気持ちでケアにあたっています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族、本人、ケアマネジャー等より、情報収集している。入居後も知ることがたくさんある。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、その日の状態を確認している。 毎日の申し送りスタッフで共有し、月1回モニタリングも行っている。		

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の意見を尊重し、家族、職員で話し合い、計画を立てている。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。ホームでの利用者一人ひとりの役割が介護計画に反映され、意欲を高める暮らしにつながっています。毎月モニタリングを実施し、基本的には6ヶ月毎に見直しをしています。管理者は「利用者の『本当の気持ち』を聞いて介護計画を作ってほしい」と願っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は分かりやすく簡潔に書くよう心掛け、毎日の申し送りで情報を共有し実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が提供できるよう、職員間でのミーティング、ゆとりをもった人員配置で臨機応変に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や法人内にも協力を得て、安全・安楽・安心な生活ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診がある。 また、必要に応じ敷地内のクリニック、歯科クリニックであれば受診への付き添いも行っている。	協力医療機関による訪問診療は月2回、看護師の職員はほぼ毎日出勤し、医師と連携、日常の健康管理に努めています。かかりつけ医への受診も可能で、隣接する敷地内のクリニックや歯科へは、希望があれば同行しています。他科の受診も可能です。事業所の母体が医療法人で、救急急変時、24時間連絡ができ安心です。法人主催の「認知症患者研修会」も受講、職員間で共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日、看護師が出勤している為、ある程度の状態は把握している。 また、24時間オンコールになっており、適切な看護が受けられるようになっている。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者 との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうし た場合に備えて病院関係者との関係づくりを行ってい	入院した際、ケースワーカーにすぐ連絡を取 り、必要な情報提供を行っている。 法人内職員が定期的に病院を回り、関係づくり を行っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段 階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ででき ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関 係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、家族等と話し合い、 希望された病院や施設等を案内している。	入居時には、利用者や家族に、重度化した場合 の説明をしています。ホームでの看取りは、原則 としては行っていませんが、家族の意向を確認 し、主治医と相談、希望に沿った対応をしていま す。住み慣れたホームでの生活を希望して、医 療的ケアは行わず、最期をホームで迎えた利用 者は、最後の夕食も他の利用者と共に食卓に着 きました。職員は、改めて命の大切さを学び、 「後悔のない終末期の支援」に努めたいと話して います。家族からは感謝の言葉が寄せられてい ます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は 応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力 を身に付けている	勉強会への参加、伝達研修を行っている。 敷地内には、かかりつけ医が居る為、すぐに連 絡を取り指示を仰ぐ等の対応を行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用 者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、 地域との協力体制を築いている	地域の自治会より、協力体制の契約は結べな いとの事であるが、地域との良好な関係は築い ている。 また、ホームで年2回、法人内で年2回の計4 回消防避難訓練を行っている。	防災管理者の下、消防避難訓練を年2回、うち 夜間を1回実施しています。利用者も参加する ホーム独自の訓練も年2回実施し、利用者毎の 動向を把握して、振り返りもしています。訓練参 加の消防設備会社からは消火器などの扱いに ついての指導も受けています。また風水害に関 する対応マニュアルも作成し、「緊急連絡先一覧 表」はスタッフルームに掲示しています。災害備 蓄品は、数力所に分けて保管管理、一覧表を添 付しています。発災時には、併設の事業所と連 携し、備蓄品の共有や避難体制を構築しており 安心です。

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、その人その人にあった丁寧で分かりやすい言葉かけを心掛けている。	個人情報保護や、一人ひとりを尊重する支援に努め、研修会も受講しています。服装や身だしなみにも配慮し、化粧水や乳液で肌を整える利用者には、それとなく見守り支援しています。不適切な対応に遭遇した場合、管理者はそれとなく助言をし、意識徹底に努めています。気遣いなく自分の気持ちを伝えることができる雰囲気づくりを大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の献立決めや、余暇の過ごし方等、自己決定できるよう言葉かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	出来るだけ希望された事ができる様、努力している。 職員だけでは困難な事は家族にも協力して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には更衣をし、髪をとかす等の支援をしている。 希望される方はホームで散髪、毛染めを行っている。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立を決め買い物に行き、調理、片付けと一緒にやっている。	昼食は法人内の老人保健施設で作っていますが、毎朝食と夕食、日曜日の3食は職員が調理を担ってます。献立は利用者と一緒に考え、買い物にも出掛けています(利用者の買い物行きは自肅中)。畑で収穫した野菜が食膳にのぼることもあります。油分と塩分を控え、噛めることを大切に調理しています。行事食も楽しみの一つで、特に焼き芋パーティーや、月1回の板前による寿司デイは好評です。家族と外食をする利用者もいます。各自好みの箸や茶碗、湯呑みで食事を楽しみます。「みんなの役割」を掲げ、できることを見極めて、手を出しすぎない支援に努めています。食後、自ら台所に立ち、後片付けをする利用者の姿は、これまでの暮らしの延長線上にあります。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好品や習慣等、入居時に尋ねている。毎日の摂取量も記録し、必要であれば法人内の管理栄養士に相談している。 一人一人の食べられる量も把握している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にはハミガキをする様に支援し週2回義歯洗浄剤につけ清潔に努めている。 年一回、市が行っている無料検診に行っている。		
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行かれた際には、パンツやパットのチェックを行ったり、使用時間を確認したりして、排泄パターンや方法等を把握している。	排泄パターンを把握し、それとなく声を掛け、トイレ誘導をしています。利用者の状態に合わせて、パッド、紙パンツを着用していますが、布パンツの着用を大切に、自立支援に繋げています。夜間は声掛けをし、個々に合わせた誘導をしています。分かりやすく表示された広いトイレは、24時間点灯しています。管理者は、眠りが浅くならないような「個々に合わせた、より良い支援の仕方」を考えています。	

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れたり、お米にもち麦をまぜたり、毎朝バナナを食べたりしている。運動をし、予防に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴を行っている。 入浴するかしないかは、毎日一人一人に尋ねており、最低でも週2回以上は入浴できるよう支援している。	声かけにより、ほとんどの利用者は毎日入浴を希望し、それぞれの体調に合わせて柔軟に対応しています。自宅での生活習慣に合わせ、また、良い睡眠に繋げるようにとの思いから、開所当時から夜間就寝前の入浴に取り組んでいます。入浴を好まない利用者にも、その意思を尊重しながら、週2回以上の入浴を工夫しています。家庭的な浴室には、手摺りを備え、床面には滑り止めマットを敷き、シャワーチェアも適宜利用して、安心安全に入ることができています。菖蒲湯、ゆず湯で季節を感じ、入浴剤も楽しんでいます。入浴前の準備には、利用者毎に必要な物を明記したカードを吊るすなどの工夫もしています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても、その時の状態に応じ居室で休んで頂くよう支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルしてあり、いつでも見られるようにしている。 薬に変更があった際、申し送りで職員に周知している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力に合わせ役割を持って頂いている。 楽しみごとや気分転換の方法は個々によって違うことから、個別に対応している。	

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今すぐ出かけたい」と言われれば、出来る限り沿うように努めている。墓参りや外食、デパート等、家族にお願いすることもある。	外出の機会は徐々に取り戻しています。現在はインフルエンザ流行の影響を受け、買い物は自粛中ですが、広い敷地内で毎日の散歩を続けています。また動画を見ながら、リハビリ体操もしています。下肢筋力低下予防の為、利用者の状態に合わせてコースを分け、少し遠出をすることもあります。畑仕事や野菜の収穫も外気に触れる良い機会となっています。秋まつりでは庭にテーブルを出して家族と共に楽しんだ利用者や、家族と外出や外泊をする利用者もいます。日常の様子は「ブルーベリーミニ通信」で、家族に知らせています。毎月の季節の行事は、閉塞感のない暮らしに繋がっていますが、コロナ禍を通して、改めて外出の大切さを知ることができました。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金をお預かりして、どの程度であれば使用してよいか入居時に確認している。高額な物が欲しいと言われた時や必要性に迷った際は家族に連絡している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を使って頂いて良い事としている。 お手紙の代筆を行ったりもしている。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目で見てそこが何をする場所なのか分かるように張り紙をしたり、トイレは24時間電気をつけたままにしたりしている。	掃き出し窓から明るい陽が射す広いリビングです。キッチンから食卓へと続き、その横にはテレビを囲むように幾つものソファを設えています。スタッフルームはオープンで、職員はカウンター越しに常時利用者の様子をうかがい、利用者は職員に気軽に話しかけることができます。壁一面、手作りの装飾を施し、新年を悦ぶ巳年の絵や日常の利用者の写真も飾っています。また加湿器は3台設置し、温度湿度計も備え、環境への配慮もしています。大きなシャンデリアと、幾つもの天窓からの柔らかな明かりの下、日々当たり前の生活が、ゆったりと流れる空間となっています。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名で話ができるようソファを配置したり、庭に向けて椅子を配置したりしている。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンとカーテン以外は全て持ち込みになっており、使い慣れた家具を持ってきて頂くようお願いしている。	表札は大きく表示し、利用者の目線に合わせて掲げています。エアコン・カーテンはホームで設置し、利用者は好みの物を持ち込みます。家族からの手紙やアルバム、パズルや写真を飾った部屋もあります。写真とメッセージの書かれた日記帳を、家族から贈られ大事に部屋に置く利用者や、夕陽が見える部屋で、毎日手を合わせる利用者もいます。大正琴を持ち込む利用者もありました。居室から一歩出るとリビングに繋がり、他の利用者や職員と直ぐに顔を合わせられることで、孤独を感じず安心して過ごすことができる居室となっています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には表札をたて、トイレや職員ルームの前にも掲示している。 居室から一歩出れば共有空間があり、安心感もある。		